



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月14日
東・福

上場会社名 株式会社宮崎銀行 上場取引所
コード番号 8393 URL <https://www.miyagin.co.jp/>
代表者(役職名) 取締役頭取 (氏名) 杉田 浩二
問合せ先責任者(役職名) 経営企画部長 (氏名) 横山 秀樹 TEL (0985) 32-8212
配当支払開始予定日 —
特定取引勘定設置の有無 無
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て、小数点第1位未満は切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績(2024年4月1日~2024年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	59,742	16.9	11,518	32.5	8,090	27.3
2024年3月期第3四半期	51,069	△2.8	8,688	△24.6	6,351	△23.4

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 3,557百万円(△77.5%) 2024年3月期第3四半期 15,844百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
2025年3月期第3四半期	円 銭 474.05	円 銭 471.98
2024年3月期第3四半期	367.08	365.51

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2025年3月期第3四半期	百万円 4,074,643	百万円 190,533	% 4.6
2024年3月期	4,110,848	189,852	4.6

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 190,353百万円 2024年3月期 189,703百万円

(注) 「自己資本比率」は、(四半期)期末純資産の部合計 - (四半期)期末新株予約権を(四半期)期末資産の部合計で除して算出しております。なお、本「自己資本比率」は、自己資本比率告示に定める自己資本比率ではありません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭 —	円 銭 50.00	円 銭 —	円 銭 50.00	円 銭 100.00
2025年3月期	—	55.00	—		
2025年3月期(予想)				55.00	110.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日~2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	77,200	12.0	13,600	36.1	9,300	31.2
						545.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

詳細は、添付資料P.6「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年3月期3Q	17,633,400株	2024年3月期	17,633,400株
2025年3月期3Q	646,866株	2024年3月期	315,890株
2025年3月期3Q	17,067,747株	2024年3月期3Q	17,302,143株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等の注記)	7
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7
3. 四半期決算短信説明資料(参考資料)	8
(1) 第3四半期決算の概況(単体)	8
(2) 金融再生法ベースのカテゴリーによる開示	9
(3) 自己資本比率(国内基準)	10
(4) 時価のあるその他有価証券の評価差額(連結)	11
(5) 貸出金、預金等、預り資産残高(単体)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間(2024年4月1日~2024年12月31日)の業績につきましては、経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が増加し、預り資産手数料や受入雑手数料の増加により役務取引等収益が増加したことから、前第3四半期連結累計期間に比べ86億73百万円増加して597億42百万円となりました。

一方、経常費用は、売現先利息や債券貸借取引支払利息の増加により資金調達費用が増加したこと、貸倒引当金繰入額の増加によりその他経常費用が増加したことから、前第3四半期連結累計期間に比べ58億42百万円増加して482億23百万円となりました。

以上により、経常利益は、前第3四半期連結累計期間に比べ28億30百万円増加して115億18百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、同17億39百万円増加して80億90百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末(2024年12月31日)における財政状態につきましては、総資産は、前連結会計年度末に比べ362億円減少して4兆746億円、純資産は、同6億円増加して1,905億円となりました。

主要な勘定科目につきましては、貸出金は個人貸出および法人貸出が増加したことから、前連結会計年度末に比べ831億円増加して2兆3,664億円、有価証券は地方債や社債が減少したことから、同510億円減少して7,759億円、預金・譲渡性預金は、個人預金が増加したことから、同192億円増加して3兆1,824億円となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

2025年3月期の業績予想につきましては、2024年11月5日公表の数値から変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
現金預け金	925,050	833,474
コールローン及び買入手形	1,665	—
有価証券	826,936	775,927
貸出金	2,283,318	2,366,443
外国為替	3,048	14,364
リース債権及びリース投資資産	9,600	9,567
その他資産	40,201	52,738
有形固定資産	23,371	23,028
無形固定資産	4,531	4,896
退職給付に係る資産	2,758	2,891
繰延税金資産	—	1,636
支払承諾見返	4,644	4,129
貸倒引当金	△14,280	△14,456
資産の部合計	4,110,848	4,074,643
負債の部		
預金	3,114,682	3,057,550
譲渡性預金	48,527	124,940
コールマネー及び売渡手形	22,211	3,700
売現先勘定	64,561	99,566
債券貸借取引受入担保金	161,738	174,573
借入金	478,199	368,780
外国為替	37	53
その他負債	22,320	46,974
役員賞与引当金	28	—
退職給付に係る負債	1,499	1,382
睡眠預金払戻損失引当金	155	122
偶発損失引当金	143	232
繰延税金負債	139	—
再評価に係る繰延税金負債	2,104	2,104
支払承諾	4,644	4,129
負債の部合計	3,920,996	3,884,110
純資産の部		
資本金	14,697	14,697
資本剰余金	12,779	12,779
利益剰余金	139,464	145,755
自己株式	△977	△2,083
株主資本合計	165,964	171,148
その他有価証券評価差額金	16,421	9,443
繰延ヘッジ損益	2,981	5,394
土地再評価差額金	2,615	2,615
退職給付に係る調整累計額	1,720	1,752
その他の包括利益累計額合計	23,739	19,205
新株予約権	148	179
純資産の部合計	189,852	190,533
負債及び純資産の部合計	4,110,848	4,074,643

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)
経常収益	51,069	59,742
資金運用収益	30,781	40,777
(うち貸出金利息)	21,243	22,454
(うち有価証券利息配当金)	8,953	15,723
役務取引等収益	8,533	9,060
その他業務収益	6,501	6,766
その他経常収益	5,252	3,137
経常費用	42,380	48,223
資金調達費用	6,443	12,244
(うち預金利息)	88	1,040
役務取引等費用	4,033	4,341
その他業務費用	10,205	9,449
営業経費	19,315	19,013
その他経常費用	2,381	3,174
経常利益	8,688	11,518
特別損失	69	57
固定資産処分損	69	57
税金等調整前四半期純利益	8,618	11,461
法人税、住民税及び事業税	2,557	3,165
法人税等調整額	△290	204
法人税等合計	2,267	3,370
四半期純利益	6,351	8,090
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,351	8,090

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益	6,351	8,090
その他の包括利益	9,493	△4,533
その他有価証券評価差額金	7,610	△6,978
繰延ヘッジ損益	1,705	2,412
退職給付に係る調整額	176	32
四半期包括利益	15,844	3,557
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,844	3,557

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

連結子会社の税金費用は、当第3四半期会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じることにより算定しております。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合 計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	46,694	3,930	50,625	443	51,069	—	51,069
セグメント間の内部経常収益	74	224	299	196	495	△495	—
計	46,768	4,155	50,924	639	51,564	△495	51,069
セグメント利益	8,271	281	8,553	139	8,692	△4	8,688

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業務等を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額△4百万円は、セグメント間の取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合 計	調整額	四半期連結損益 計算書計上額
	銀行業	リース業	計				
経常収益							
外部顧客に対する経常収益	55,282	4,027	59,309	432	59,742	—	59,742
セグメント間の内部経常収益	78	228	306	182	489	△489	—
計	55,360	4,255	59,616	615	60,231	△489	59,742
セグメント利益	11,144	291	11,436	86	11,522	△4	11,518

(注) 1 一般企業の売上高に代えて、それぞれ経常収益を記載しております。

2 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、信用保証業務等を含んでおります。

3 セグメント利益の調整額△4百万円は、セグメント間の取引消去であります。

4 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	2,205百万円	2,156百万円

3. 四半期決算短信説明資料（参考資料）

(1) 第3四半期決算の概況（単体）

①経常収益
貸出金利息や有価証券利息配当金、役務取引等収益が増加したことから、前年同期比 85億35百万円増加して 550億38百万円となりました。

②コア業務純益
貸出金利息や有価証券利息配当金の増加により資金利益が増加したことから、前年同期比 28億97百万円増加して 128億6百万円となりました。

③経常利益
資金利益が増加し、有価証券に関する損益が増加したことから、前年同期比 28億82百万円増加して 111億7百万円となりました。

④四半期純利益
経常利益が増加したことから、前年同期比 17億36百万円増加して 78億2百万円となりました。

(単位：百万円)

	2025年3月期		2024年3月期 第3四半期	(参考) 2024年3月期
	第3四半期	2024年3月期 第3四半期比		
経常収益	55,038	8,535	46,503	62,670
業務粗利益	29,136	5,381	23,755	32,010
資金利益	28,429	4,200	24,229	33,690
役務取引等利益	4,546	234	4,312	5,763
その他業務利益	△ 3,839	948	△ 4,787	△ 7,443
コア業務粗利益	30,976	2,749	28,227	37,527
経費（除く臨時処理分）	18,170	△ 147	18,317	24,210
うち人件費	8,905	△ 163	9,068	11,869
うち物件費	7,925	△ 69	7,994	10,616
業務純益（一般貸倒引当金繰入前）	10,965	5,528	5,437	7,799
コア業務純益	12,806	2,897	9,909	13,316
コア業務純益(除く投資信託解約益)	12,806	2,897	9,909	13,316
一般貸倒引当金繰入額 ①	454	52	402	1,855
業務純益	10,511	5,476	5,035	5,944
うち債券関係損益	△ 1,840	2,631	△ 4,471	△ 5,516
臨時損益	596	△ 2,594	3,190	3,293
うち株式等関係損益	1,398	△ 1,905	3,303	3,626
うち不良債権処理額 ②	1,777	822	955	1,146
うち貸倒引当金戻入益 ③	-	-	-	-
うち償却債権取立益 ④	197	88	109	115
経常利益	11,107	2,882	8,225	9,237
特別損益	△ 57	12	△ 69	8
税引前四半期（当期）純利益	11,050	2,894	8,156	9,245
法人税等合計	3,248	1,159	2,089	2,626
四半期（当期）純利益	7,802	1,736	6,066	6,618
与信関連費用 ①+②-③-④	2,034	785	1,249	2,886

(注) 1. コア業務粗利益＝業務粗利益－債券関係損益

2. コア業務純益＝コア業務粗利益－経費

(2) 金融再生法ベースのカテゴリによる開示
(部分直接償却実施後)

金融再生法ベースの不良債権残高(連結)は、2024年3月末比 39億円減少して 304億円となりました。
なお、開示債権の総与信に占める割合は、2024年3月末比 0.21ポイント低下して 1.25%となりました。

【 連結 】

(単位：億円)

	2024年12月末			2024年3月末	2023年12月末
		2024年3月末比	2023年12月末比		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	73	31	5	42	68
危険債権	207	△ 39	△ 39	246	246
要管理債権	23	△ 32	△ 7	55	30
合計	304	△ 39	△ 40	343	344
総与信	24,336	810	770	23,526	23,566
開示債権の総与信に占める割合	1.25%	△ 0.21%	△ 0.21%	1.46%	1.46%

(注) 1. 上記の12月末の計数は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則」第4条に規定する各債権のカテゴリ（以下、「開示区分」という。）により分類しております。

また、12月末の開示区分の金額は、2024年9月末から同年12月末までの倒産・不渡り等の客観的な事実及び行内格付の変動等を反映させた同年12月末時点での当行の定める債務者格付・自己査定基準に基づく各残高を記載しております。

2. 債務者区分との関係

破産更生債権及びこれらに準ずる債権 … 「実質破綻先」、「破綻先」の債権

危険債権 …………… 「破綻懸念先」の債権

要管理債権 …………… 「要注意先」のうち、債権毎の区分で「3ヵ月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する債権

<参考>【 単体 】

(単位：億円)

	2024年12月末			2024年3月末	2023年12月末
		2024年3月末比	2023年12月末比		
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	69	30	4	39	65
危険債権	205	△ 38	△ 38	243	243
要管理債権	23	△ 32	△ 7	55	30
合計	298	△ 41	△ 41	339	339
総与信	24,205	799	759	23,406	23,446
開示債権の総与信に占める割合	1.23%	△ 0.21%	△ 0.21%	1.44%	1.44%

(3) 自己資本比率 (国内基準)

2024年12月末の連結自己資本比率は、利益の積み上げ等により自己資本額が増加したことから、2024年3月末比 0.14ポイント上昇して 9.20%となりました。

【 連結 】

(単位：億円)

	2024年12月末			2024年3月末	2023年12月末
		2024年3月末比	2023年12月末比		
①自己資本比率 ②÷③	9.20%	0.14%	0.20%	9.06%	9.00%
②自己資本額	1,705	57	77	1,648	1,628
③リスク・アセット	18,525	344	438	18,181	18,087

(注) 1. 自己資本比率(国内基準)は、「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号)」に基づき算出しております。

<参考> 【 単体 】

(単位：億円)

	2024年12月末			2024年3月末	2023年12月末
		2024年3月末比	2023年12月末比		
①自己資本比率 ②÷③	8.92%	0.14%	0.15%	8.78%	8.77%
②自己資本額	1,639	54	63	1,585	1,576
③リスク・アセット	18,375	331	419	18,044	17,956

(4) 時価のあるその他有価証券の評価差額(連結)

有価証券評価差額(繰延ヘッジ損益考慮後)は、2024年3月末比 66億円減少して 202億円の評価益となりました。

【繰延ヘッジ損益考慮後】

当行は、有価証券の時価変動リスクをヘッジするためデリバティブ取引を行っており、繰延ヘッジ会計を適用しております。評価差額には、税効果勘案前の繰延ヘッジ損益を含めた数値を表示しております。

(単位:億円)

種類	2024年12月末						2024年3月末		2023年12月末	
	時価	評価差額		時価	評価差額	時価	評価差額	時価	評価差額	
		2024年 3月末比	2023年 12月末比							2024年 3月末比
株式	785	△ 25	126	334	△ 36	111	810	370	659	223
債券	2,665	△ 913	△ 1,239	△ 81	△ 21	△ 26	3,578	△ 60	3,904	△ 55
その他	4,176	435	887	△ 49	△ 8	△ 13	3,741	△ 41	3,289	△ 36
合計	7,627	△ 503	△ 226	202	△ 66	71	8,130	268	7,853	131

(5) 貸出金、預金等、預り資産残高(単体)

- ① 貸出金残高は、中小企業等貸出金を中心に増加し、2023年12月末比 809億円増加して2兆3,719億円となりました。
- ② 預金等残高は、個人預金が増加し、2023年12月末比 287億円増加して3兆1,891億円となりました。
- ③ 預り資産残高は、投資信託および保険が増加し、2023年12月末比 382億円増加して3,558億円となりました。

① 貸出金残高

(単位：億円)

	2024年12月末			2024年3月末	2023年12月末
	2024年12月末	2024年3月末比	2023年12月末比		
貸出金	23,719	827	809	22,892	22,910
うち中小企業等貸出金	19,444	415	421	19,029	19,023
うち個人ローン	9,366	396	513	8,970	8,853
住宅ローン	8,794	369	474	8,425	8,320
消費者ローン	571	26	39	545	532
中小企業等貸出金比率	81.98%	△ 1.14%	△ 1.05%	83.12%	83.03%

② 預金等残高

(単位：億円)

	2024年12月末			2024年3月末	2023年12月末
	2024年12月末	2024年3月末比	2023年12月末比		
預金等	31,891	191	287	31,700	31,604
預金	30,609	△ 573	131	31,182	30,478
うち個人預金	19,805	557	464	19,248	19,341
流動性預金	14,895	617	574	14,278	14,321
定期性預金	4,910	△ 60	△ 109	4,970	5,019
うち法人預金	8,647	△ 144	△ 142	8,791	8,789
流動性預金	6,921	△ 88	△ 98	7,009	7,019
定期性預金	1,725	△ 57	△ 45	1,782	1,770
譲渡性預金	1,281	764	155	517	1,126

③ 預り資産残高

(単位：億円)

	2024年12月末			2024年3月末	2023年12月末
	2024年12月末	2024年3月末比	2023年12月末比		
預り資産	3,558	256	382	3,302	3,176
投資信託	1,066	142	237	924	829
うち個人	985	148	240	837	745
公共債等債券	280	17	16	263	264
うち個人	211	12	11	199	200
保険	2,211	97	130	2,114	2,081

(注) 公共債等債券に含まれる仕組債および保険については販売累計額を計上しておりましたが、今回から過去の分も含め残高を計上しております。

以上

2025年3月期 第3四半期決算について

2025年2月14日



2024年12月期 決算サマリー

【 単体 】

(単位：億円)

	2023年 12月期 (1)	2024年 12月期 (2)	増減 (2)-(1)
経常収益 ①	465.0	550.3	85.3
コア業務粗利益 ②	282.2	309.7	27.5
資金利益	242.2	284.2	42.0
役務取引等利益	43.1	45.4	2.3
その他業務利益 (債券関係損益除く)	▲3.1	▲19.9	▲16.8
経費 ③	183.1	181.7	▲1.4
人件費	90.6	89.0	▲1.6
物件費	79.9	79.2	▲0.7
コア業務純益 (②-③) ④	99.0	128.0	29.0
除く投資信託解約益	99.0	128.0	29.0
与信関連費用 ⑤	12.4	20.3	7.9
貸倒引当金繰入額	12.9	20.2	7.3
償却債権取立益	1.0	1.9	0.9
有価証券に関する損益 ⑥	▲11.6	▲4.4	7.2
債券関係損益	▲44.7	▲18.4	26.3
株式等関係損益	33.0	13.9	▲19.1
その他臨時損益 ⑦	7.2	7.7	0.5
経常利益 (④-⑤+⑥+⑦) ⑧	82.2	111.0	28.8
特別損益	▲0.6	▲0.5	0.1
税引前四半期純利益	81.5	110.5	29.0
法人税等合計	20.8	32.4	11.6
四半期純利益 ⑨	60.6	78.0	17.4

当第3四半期決算の概要

1. 経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金、役務取引等収益が増加したことから、前年同期比85.3億円の増収となりました。
2. 経常利益は、資金利益の増加や有価証券に関する損益の増加などにより、前年同期比28.8億円の増益となりました。
3. この結果、当第3四半期は、2期ぶりの増収増益となりました。

① 経常収益

 2023年12月期比 +85.3億円
 (2期ぶりの増収)

(a) 貸出金利息や有価証券利息配当金、役務取引等収益が増加。

⑧ 経常利益

 2023年12月期比 +28.8億円
 (2期ぶりの増益)

(a) 貸出金利息や有価証券利息配当金の増加により資金利益が増加し、有価証券に関する損益が増加。

⑨ 四半期純利益

 2023年12月期比 +17.4億円
 (2期ぶりの増益)

増収・増益の要因（前年同期比）

（単位：億円）

経常収益 +85.3		要因
①資金運用収益	+99.9	
貸出金利息	+12.1	個人向け+6.4億円、法人向け+4.0億円、公共向け+1.6億円
有価証券利息配当金	+67.7	外国証券利息+57.0億円、その他証券利息+9.4億円
②役務取引等収益	+5.2	受入雑手数料+6.0億円、受入機能提供手数料▲1.2億円 預り資産手数料+1.5億円、受入保証料▲0.3億円
③その他業務収益	+1.2	国債等債券売却益+11.7億円、金融派生商品収益▲10.3億円
④その他経常収益	▲21.1	株式等売却益▲20.4億円
経常利益 +28.8		要因
⑤コア業務純益	+29.0	資金利益+42.0億円(資金運用収益+99.9億円、資金調達費用+58.0億円)、 役務取引等利益+2.3億円、その他業務利益(債券関係損益除く)▲16.8億円
⑥与信関連費用	+7.9	貸倒引当金繰入額+7.3億円
⑦有価証券に関する損益	+7.2	債券関係損益+26.3億円、株式等関係損益▲19.1億円
⑧その他臨時損益	+0.5	

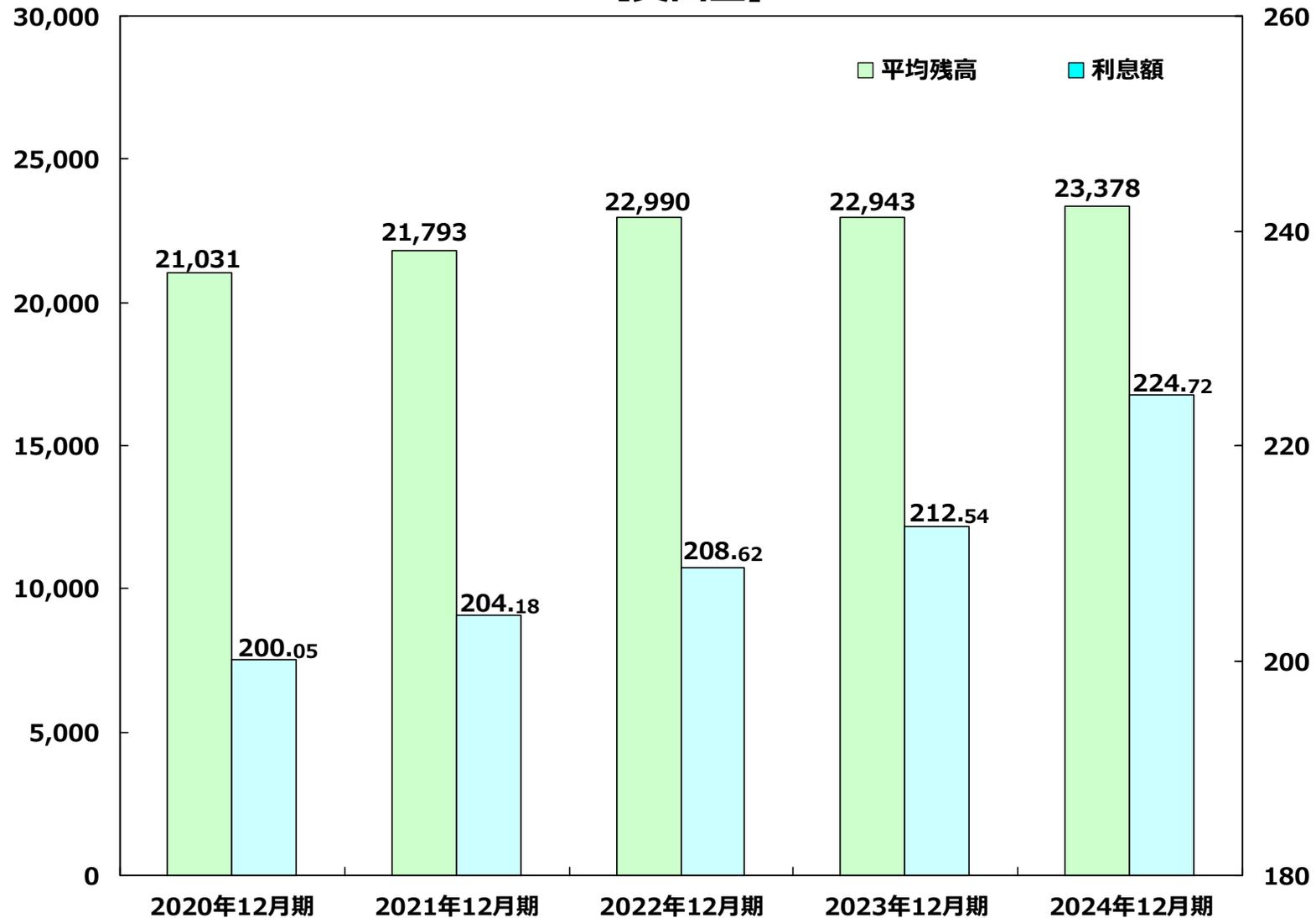
貸出金の状況 平残および利息額の推移

1. 貸出金の平均残高は、個人向けおよび法人向け貸出の増加により、前年同期比435億円増加し、2兆3,378億円（年率+1.8%）。

(平残：億円)

【貸出金】

(利息額：億円)

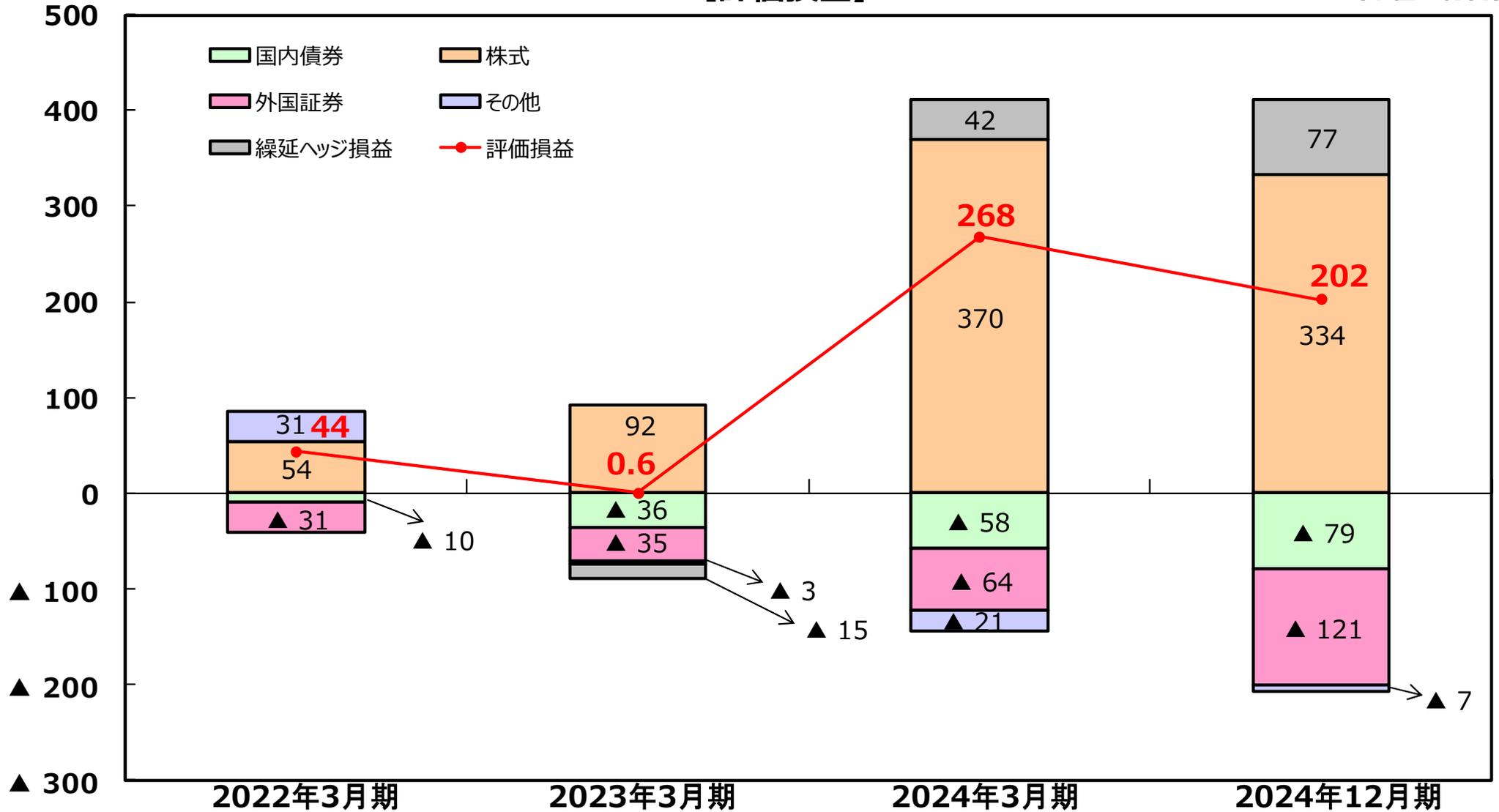


有価証券評価損益の状況

1. 繰延ヘッジ損益を含む有価証券評価損益は、前期末比66億円減少し202億円。

【評価損益】

(単位：億円)



みやぎんアプリバナー広告サービス

2024年11月、お取引先企業の営業活動支援を目的として、みやぎんアプリへの広告配信サービスを開始しました。

本アプリを広告媒体とすることで、お取引先企業は販売や集客の促進・企業イメージの向上などを図ることができます。

引き続き、お客さまのニーズに幅広くお応えすべく、最新のITやデジタル技術を活用し、地域経済の発展に取り組んでまいります。



Q-BASS台湾イベント開催

2024年12月、九州・沖縄地銀連携協定(Q-BASS)に参加する地方銀行他12行とともに、『半導体セミナーの開催』、『各行の半導体関連企業の取引先と台湾電子設備協会(TEEIA)の会員企業との個別商談会』、および『日台企業交流会』を台北市内のホテルで開催しました。

イベントには、日台の半導体関連企業をはじめとした、約190名が参加。当行のお取引先も3社参加しました。

引き続き、地域経済のさらなる成長を目指してまいります。



エコノクス甲子園宮崎大会開催

2024年12月、高校生の金融リテラシー向上に資する取り組みの一環として、「エコノクス甲子園」宮崎大会をオンラインで開催しました。県内5校から9チーム、総勢18名がエントリー。

4択クイズで金融知識を競い合い、鵬翔高等学校が優勝を勝ち取りました。

引き続き、地域社会の金融知識の向上に積極的に取り組んでまいります。



フードバンクみやざきへの物資贈呈

全国銀行協会会員、日本証券業協会会員を対象とした子ども・若者の貧困問題への取り組みである

「物資支援プロジェクト」に参加し、2024年12月、「フードバンクみやざき」へ食料品や日用品など収集物資の寄贈を行いました。引き続き、地域の若者の成長を応援するとともに、地域社会の課題解決に向けて貢献してまいります。



生成AI技術を活用した当行専属オリジナル「AIタレント」の起用

2024年11月、最新の独自AI技術で生成した当行専属のオリジナルAIタレントを起用しました。

さまざまな業務における生産性向上のみならず、ブランドイメージ向上においても生成AI技術を積極的に活用してまいります。

引き続き、お客さまのニーズに幅広くお応えし、新たな取り組みにも挑戦しながら 地域経済の発展に貢献してまいります。

アイ
ドリームAI



コンセプト

当行のキャッチコピーである「明日の夢 人から人へ」と、コーポレートカラーである「宮崎の青い空、青い海原」のブルー、「宮崎の緑豊かな大地」のグリーンを表現

ひなたこ

- ・当行イメージソング「夢に逢いに行こう」が名前の由来
- ・当行のシンボルカラーをイメージした髪色
- ・新しいものを積極的に取り入れ発信してくれる

- ・宮崎出身の当行行員
- ・子どもからお年寄りまで誰にでも優しく接する
- ・地域の人々が安心して過ごせる街づくりが夢